

ハッピー龍イヤー！ ～絵画・工芸の龍を楽しむ～

静喜堂@丸の内（明治生命館1階） 24.01.02～02.03



想像上の動物である「龍」は、古代中国で誕生し、“天に昇り、雨を降らせるなど様々な力を持つ”とされ、強さや権力を象徴する「龍」は、吉祥図様として東アジの絵画をはじめ、数多くの工芸品に取り上げられている。

「龍虎図」は、鳳凰と組み合わせて皇帝と皇后を象徴した「龍鳳図」、雲を従わせ天空を飛翔する「雲龍図」、波間に姿を現わす「龍濤図」など、「龍」は多彩な姿で表されて人々に親しまれてきた。

橋本雅邦 《龍虎図屏風》 1895年 六曲一双 絹本着色 重要文化財



この「龍虎図」が江戸時代に描かれた屏風絵と明らかに違うのは、画面に立体感を持たせているという点とされる。

左隻



竹林の遠近感、その向こうに見える岩肌の描写は、日本画が近代へ歩み始めたことを示している。

右隻

六曲一双の迫力ある屏風は、左隻は竹林から現れた2匹の「虎」、右隻には雷雲から現れた2匹の「龍」が描かれ、両者は今まさに相まみえた所である。

龍虎図は、狩野派の画家が好んで描いた伝統的な画題で、波濤・雲・雷光の激しいドラマティックなスタイルや写實的描写で、水墨画を典拠として画の構想に近代的な着想を加えたこの作品は、「雅邦」の代表するものとなった。